

占部天神社戦没者慰霊碑その1

占部天神社には1897（明治30）年と1906（明治39）年建立の2つの戦没者慰霊碑がある。1897（明治30）年建立の戦没者慰霊碑は次のように記載されている。碑の右上に詩が記載されているようであるが判読不明である。六ツ美村誌を参照されたい。

・ 占部天神社戦没者慰霊碑その1（表面）

忠魂碑		
於清國鴨緑江畔虎山戦死		
故陸軍歩兵二等卒 近藤幸治郎		
陸軍少将正五位勲二等功三級男爵大迫尚敏書		
第三師團征清軍従軍者		
陸軍歩兵一等軍曹	勲八等	鈴木幾太郎
陸軍歩兵二等軍曹	勲八等	山崎才次郎
陸軍工兵上等兵	勲八等	鈴木又三郎
陸軍砲兵一等卒		酒井甚三郎
陸軍歩兵一等卒		山本善三郎
陸軍歩兵一等卒		近藤久三郎
陸軍歩兵一等卒	勲八等	山本治三郎
陸軍歩兵一等卒	勲八等	小林伊四郎
陸軍歩兵一等卒		鈴木五四郎
陸軍歩兵一等卒		土屋新太郎
陸軍騎兵一等卒	勲八等	浅井喜三郎
陸軍輜重兵一等卒	勲八等	松原新次郎
陸軍歩兵一等卒	勲八等	近藤仁三郎
陸軍歩兵一等卒		都筑植松
陸軍歩兵上等兵		渡邊八太郎
陸軍歩兵一等卒		三村榮吉
陸軍歩兵二等卒		大山喜代丸
陸軍輜重輸卒		野本林吉
内田不贅書	齊藤勘四郎鐫	

（注）輜重兵（しちょうへい）

・ 占部天神社戦没者慰霊碑その1（裏面）

明治三十年七月廿五日建立
占部村中

[大迫 尚敏 (1844~1927)]

大迫 尚敏（おおさこ なおはる）は、日本の武士・薩摩藩士、陸軍軍人、華族。学習院長、第7師団長等を務める。栄典は陸軍大将正二位勲一等功二級子爵。1883（明治16）年、陸軍中佐・歩兵第6連隊長、1885（明治18）年、近衛歩兵第1連隊長、1887（明治20）年には陸軍大佐に進級し、1890（明治23）年、第4師団参謀長、翌年の参謀本部第1局長を経て、1892（明治25）年、陸軍少

将に進み歩兵第5旅団長に就任する。

この時、日清戦争が起こり出征する。その功により1895（明治28）年、男爵の爵位を授かり華族に列せられ、功三級金鷄勲章を賜る。その後、職は参謀本部次長、階級は陸軍中將に進み1900（明治33）年、永山武四郎中將の後任として第7師団長に就任する。1904（明治37）年に始まった日露戦争では、戦況が芳しくない旅順要塞攻略の為、第7師団の動員が決まった。乃木希典大將の指揮する第3軍に組入れられ、203高地の攻撃に当たった。その後も奉天会戦に参戦し1906（明治39）年に帰国する。この時の功により陸軍大將に進む。



大迫尚敏

【日清戦争】

日清戦争（にっしんせんそう）は、1894（明治27）7月から1895（明治28）年3月にかけて行われた主に朝鮮半島（李氏朝鮮）をめぐる大日本帝国と大清国の戦争である。この戦争の結果日清講和条約が締結され、台湾には台湾総督府や台湾製糖が設置され、また大日本製糖が台湾に進出した。

【清國鴨緑江畔虎山】

1894（明治27）年10月24日の夜間から25日の早朝にかけて、日本軍は朝鮮と清国との国境にあたる鴨緑江に軍橋を掛けて渡河し、清国領内に入った。これに対し清国軍は附近の虎山に拠点を構えて迎撃を行い、鴨緑江支流の靉河沿岸などで激しい戦闘が起きた。これ以降、戦場は朝鮮国内から清国内へと移っていった。



占部天神社 戦没者慰霊碑 20150728



占部天神社 戦没者慰霊碑その1 20160608



本項は以下の資料を引用している。

[六ッ美村誌]

編者 六ッ美村是調査会
 発行 六ッ美村是調査会
 発行日 1926（大正15）年12月1日
 発行所 日新堂書店
 印刷所 活版印刷所

六ッ美村誌には次のように記載されている

戰役記念碑

所在 大字中天神社横

碑石 仙臺石 高六尺五寸 巾三尺五寸

表面 忠魂碑

まきしほのやはせこゝろれ櫻も那ちりていよく世にゐるら舞

於清國鴨綠江畔虎山戰死 故陸軍歩兵二等卒 近藤幸治郎

陸軍少將正五位勳二等功三級男爵

大迫 尙 敏 書

尙第三師團征清軍從軍者十八名の勳等氏名有り。

裏面 明治三十年七月二十五日建之

占部村中